

2023.1.28 sat  
at NAKANO ZERO



# TOKYO KOSEI WIND ORCHESTRA

#160 Subscription Concert 2022-2023

## #160

---

**Hubert Soudant**

*Conductor*

## PROGRAM | プログラム

### 13管楽器のためのセレナード Op.7

[約10分]

R.シュトラウス

Serenade für 13 Blasinstrumente / Richard Strauss

### アルプスの詩

[約23分]

F.チェザリーニ

Poema Alpstre / Franco Cesarini

休憩 Intermission [20分]

### 交響詩

[約16分]

### 「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」

R.シュトラウス／大橋晃一 編

Till Eulenspiegels lustige Streiche / Richard Strauss

### 歌劇「ばらの騎士」組曲

[約24分]

R.シュトラウス／酒井格 編

"Der Rosenkavalier" Suite / Richard Strauss

#### ！ 注意

- ・本コンサートは、会場の観客の皆様を撮影する場合がありますこと、および収録された映像がインターネット、DVDなど各種媒体で公開・販売されることを予めご了承ください。
- ・ホール内での飲食、許可のないビデオ・写真撮影、および携帯電話・スマートフォンでの撮影はご遠慮ください。
- ・携帯電話・時計のアラームなど音の出る電子機器は電源をお切りください。
- ・演奏中のプログラムをめくる音、お客様同士での会話など音を発する行為は他のお客様のご迷惑となる場合がございますのでご配慮ください。

東京佼成ウインドオーケストラでは、政府・各自治体およびホールの方針に基づき、最大限の感染予防と拡大防止のための対策を実施した上で、本公演を開催いたします。詳細につきましては、当団公式サイト掲載の《【重要】感染症予防対策についての取り組みとお願い》をご覧ください。

本公演に関する  
アンケートへ  
ご協力ください。



## PROFILE | 指揮者プロフィール



ユベール・スダーン  
Hubert Soudant, Conductor

©Tokyo Symphony Orchestra

1946年、オランダ・マーストリヒト生まれ。ブザンソン国際指揮者コンクール優勝、カラヤン国際指揮者コンクール第2位、グイード・カンテルリ国際コンクール優勝に輝いている。これまでに、ベルリン・フィル、ロンドン響、ミュンヘン・フィル、ハンブルク、フランクフルトの各放送交響楽団、ドレスデン・シュターツカペレ、そして、ミラノ・スカラ座歌劇場管弦楽団、ローマ・サンタ・チェチーリア管など主要なオーケストラと共演し、オペラの分野でもバスターコ・オペラや、バルマ、パレルモ、ポローニャなどのオペラハウスで精力的に活動している。2004年7月、ザルツブルク市名誉市民およびオーストリア・ザルツブルク州ゴールドデン勲章を授与された。

メルボルン交響楽団首席客演指揮者、フランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団、ザルツブルク・モーツァルト管弦楽団の首席指揮者、東京交響楽団音楽監督などを歴任。現在、東京交響楽団桂冠指揮者を務めている。

東京交響楽団音楽監督在任中には数々の業績を残したが、シューベルト・チクルスでは「2008年もっとも充実した果実」「信じられないほど絶妙なバランスがとれた演奏」と絶賛され、2006年5、6月新国立劇場で指揮したモーツァルトの歌劇「皇帝ティトの慈悲」では年間ベスト・オペラ公演に選ばれた。また近年では、大阪フィルハーモニー交響楽団、兵庫芸術文化センター管弦楽団、札幌交響楽団、広島交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢などとも友好な関係を築いている。国際的な音楽祭においても、プラハの春、リンツ・ブルックナー、ザルツブルク・モーツァルト週間、ウィーン芸術週間、ニュー・ヨークのモーストリー・モーツァルト、など多数招かれている。

レコーディングにおいても、東京交響楽団とのCDのほか多数をリリースしている。

# PROGRAM NOTES | 曲目解説—富樫鉄火(音楽ライター)

※本文中の「東京佼成ウインドオーケストラ」は「TKWO」と略しました。

## 吹奏楽で輝く、リヒャルト・シュトラウスの魅力

リヒャルト・シュトラウス(1864~1949/ドイツ)は、父がミュンヘン宮廷楽団のホルン奏者で音楽教師、母が裕福なビール醸造業者の娘という、ドイツ中産階級の良家の子弟として育った。父の影響で子どものころから、ピアノ、ヴァイオリン、作曲などを学んでいたが、音楽学校には一切通っていない。作曲は十代前半のころから始めている。

リヒャルトの少年時代、ドイツ音楽界はワーグナー全盛期だった。だが保守的な父はワーグナーを嫌い、息子には徹底的にモーツァルトなどの古典派を教えた。その影響か、後年、リヒャルトは、モーツァルト時代への憧憬と、ワーグナーを凌ぐ壮大な管弦楽とが一体となったような音楽を書くようになる。後年は指揮者としても大活躍した。

第2次世界大戦中は、ナチス・ドイツ政権下で音楽院総裁もつとめた。そのため、親ナチスと見られた時期もあったが、ユダヤ人の友人を守ったこともあり、戦後の非ナチ化裁判では無罪となっている。

85年の生涯のうち、30歳代までは交響詩を中心に、40歳代以降はオペラを中心に書いた。大量の歌曲で、多くのドイツの詩人の存在を助けた功績も大きい。複数の旋律が絡み合いながら、濃厚かつ官能的に奏でられる音楽が特徴で、後期ロマン派を代表する大作曲家とされている。

大量の管楽器を使用する楽曲が多く、吹奏楽でもよく演奏されている。TKWOにとっても重要な作曲家で、過去、本日の楽曲のほかに、交響詩《ドン・ファン》、《アルプス交響曲》、楽劇《サロメ》〜〈7つのヴェールの踊り〉、《メタモルフォーゼン》などが演奏されている。また、歌曲を声楽なしの管楽アンサンブルで演奏することも多く、これも大好評で、吹奏楽でリヒャルトの魅力を広めている。

本日は、リヒャルトが幼少時より親しんだ楽器、ホルンが活躍する曲が多いが、指揮者のユベール・スダーン自身、ホルン奏者でもあった。オマージュ作品も含めて、リヒャルト・シュトラウスの華やかな響きとホルンの魅力を、たっぷりとお楽しみいただきたい。

## R.シュトラウス 13管楽器のためのセレナード Op.7

1882年、リヒャルト18歳の年に、ドレスデン宮廷楽団によって初演された出世作。ミュンヘン大学哲学科に入学した年の曲である。

この作品は、当時の大指揮者、ハンス・フォン・ビューローに高く評価された。ビューローは本曲をかなり気に入ったようで、ドイツ各地で演奏してくれた。おかげで、リヒャルトは一挙にドイツ音楽界で知られる存在となった。

曲名からわかるように、明らかにモーツァルトの《グラン・パルティータ》K.361(13管楽器のためのセレナード)を意識して書かれている。オリジナルは、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、バスーン2、ホルン4、コントラバスーン1(またはチューバ)で構成されている。後年、リヒャルト自身によるピアノ独奏版や4手ピアノ版も出版された。

旧来の「セレナード」は複数楽章形式だが、本曲は、ゆったりしたアンダンテの単一楽章。いかにも若者らしい清

涼な響きのなかにも、すでに、後年のリヒャルトを思わせる濃厚な香りの片鱗が顔を出す。

初演メンバーの中に、名ホルン奏者のオスカー・フランツ(1843~1886)がおり、本曲がきっかけで信頼を得たリヒャルトは、後年、作曲したホルン協奏曲第1番を彼に献呈している(フランツは作曲家でもあり、ホルンの《無言歌》は、いまでも音大やコンテストで課題曲となっている)。

なおリヒャルトは、のちに、同じ楽器編成の組曲も書いているが、これもビューローの進言によるものであった。

## F.チェザリーニ アルプスの詩

スケール豊かな曲想で日本でも大人気のフランコ・チェザリーニが、リヒャルト・シュトラウスの《アルプス交響曲》へのオマーージュとして、リヒャルトの没後50年を機に作曲。1999年に発表された。

全体は〈I.霧〉〈II.哀愁(寂寥)〉〈III.思いがけない光〉〈IV.精神的活動(心の動き)〉〈V.高原の牧場〉〈VI.嵐〉〈VII.神の国〉の7部構成。カウベルやウインドマシーンが登場するところなども《アルプス交響曲》を思わせるが、リヒャルト曲のように、アルプス登山を題材にしているわけではなく、大自然に対する人間の想いや思索を描いている。現に、チェザリーニ自身、トーマス・マンの小説『魔の山』に触発された旨を述べている。アルプス山中の結核療養所で7年間を過ごす青年が、様々な人々と交流し、思索を深めながら成長していく20世紀ドイツ文学の傑作である。そんな文学作品を題材に、《アルプス交響曲》のスタイルを借りて、大自然と人間との関係を描く——そんな音楽である。

作曲家フランコ・チェザリーニ(1961~)は、スイス人だが、南部ティチーノ州のベッリンツォーナで生まれた。ここを地図で見ると、イタリアに食い込んでいる。このあたりは「スイス・イタリア語圏」と呼ばれ、スイスでありながらイタリア語を使用する、文化の混在エリアである。クラシック音楽のファンだったら「スイス・イタリア語放送管弦楽団」(別称「ルガーノ放送管弦楽団」)の本拠地としておなじみだろう。世界中から著名な指揮者や共演者を招いており、かつてリヒャルトも指揮している。チェザリーニも、スイスとイタリア双方の音楽院で学んだ。つまりスイスの大自然とイタリアの古典文化に囲まれて育ったわけで、《アルプスの詩》は、そんな彼の特質が強く出た作品である。

日本ではほかに、《ビザンチンのモザイク画》や《ブルー・ホライゾン》(青い水平線)などに人気がある。交響曲もすでに第2番《江戸の風景》まで発表しており、第1番《アークエンジェルズ》は、2022年2月のTKWO第157回定期で、《ブルー・ホライゾン》も同年9月の第159回定期で、ともに飯森範親の指揮によって演奏されている。

## R.シュトラウス／大橋晃一 編 交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」

先述のように、リヒャルト・シュトラウスは、30歳代までは「交響詩作曲家」として知られていた。その第一弾が《ドン・ファン》で、以後、《マクベス》《死と変容》とつづき、1895年、31歳の時に発表された第4弾が本曲である。

「ティル・オイレンシュピーゲル」とは、14世紀ころにドイツに実在したといわれている道化の奇人。小うるさい親方をだまして困らせたり、下世話な糞尿によるいたずらで知られ、絵本や伝承本となり、体制や権威に対抗する象徴として大衆に愛される存在となった。最期は逮捕され、処刑されたとも伝えられている(伝承本では脱走する)。

リヒャルトは、当初、この伝承をオペラ化しようと考えていた。しかし、すでに他人がオペラ化していたほか、別の

題材に興味があったせいもあって、最終的には管弦楽曲とすることで落ち着いた。ちなみにスコアには「交響詩」ではなく、「大管弦楽のための、ロンド形式による、むかしのいたずら者の物語」と冠せられている。

原曲は4管編成で、オプションまで含めると、ホルンは8本、トランペットは6本、また弦楽5部は計64人が指定されている。

ケルンにおける初演は大成功だった。ストーリー性とリズム感のある曲想だったせいか、すぐに、本曲をバレエ化しようとするひびが続出した。リヒャルト自身もそれを許可し、ニジンスキ、ディアギレフ、ムラカール夫妻、バラシントンといった錚々たる振付師や興行師が世界中で本曲を上演し、一時はバレエ曲としての人気のほうが高いくらいだった。

曲は、短い前奏が「むかしむかし、あるところに……」と語りかけたあと、ホルンによる有名な「ティルのテーマ」がつづく。まさに自家薬籠中のメロディだが、ほぼ3オクターヴにおよぶ広音域を要求される。

その後、クラリネットによるティルの微笑みを経て、いたずらで大騒ぎに～逮捕の予感～女性に相手にされない怒り～豪快ないたずらの連続～逮捕～裁判～死の恐怖～絞首台での処刑……と息を継ぐ間もなく、絵巻物のように音楽が展開する。

ラストでは、耳慣れたテーマが再登場し、ティルは死すとも、その反逆精神は永遠につづく……と予感させて見事な幕切れとなる。全編、リヒャルトならではの見事なオーケストレーションが炸裂する名曲である。

本日は、すでにTKWOファンにはおなじみ、大橋晃一による新編曲で演奏される。

## R. シュトラウス／酒井 格 編 歌劇「ばらの騎士」組曲

### ◎オペラ原曲について

リヒャルト・シュトラウスがオペラに本腰を入れ始めるのは40歳を過ぎてからで、最初の成功作が、第3作《サロメ》(1905年初演、41歳)である。本作《ばらの騎士》は、第5作目にあたり、1911年にドレスデン宮廷歌劇場で初演された(作曲時、46歳)。

台本は、このあと名コンビとなる大作家、フーゴ・フォン・ホーフマンスタール(1874～1929)による。すでに彼とは第4作《エレクトラ》で組んでいたが、これは既出の戯曲をほぼそのまま音楽化したもので、オリジナル共作としては、《ばらの騎士》が最初だった。

内容はモーツァルト・オペラへのオマージュ。まさにモーツァルトが活躍した、女帝マリア・テレジア時代(1700年代)のウィーンを舞台に、元帥夫人のもとから、愛人の青年貴族が去っていくまでが、さまざまな人間関係をからめながらコメディ風に描かれる。元帥夫人たち大人にとっては”人生の黄昏”、青年貴族たち若者にとっては”大人への入口”となる過程が、あまりに美しい音楽で奏でられる。

題名の「ばらの騎士」とは、貴族が婚約を申し込む際に立てる使者のことで、その際に“銀のばら”の造花をおくことから、この名称となった……のだが、実はこれは台本作家ホーフマンスタールの創作。ただし彼はマリア・テレジア女帝の侍従長の日記を資料としており、劇中の貴族たちの生活ぶりは、かなり正確に再現されているといわれている。よって似たような慣習があったのかもかもしれない。

全3幕で正味3時間半の大作。主要歌手は4人だが、高度な歌唱力と演技力を要求される。アリアは皆無で、ほとんどが複数歌手による重唱。特にクライマックスの三重唱は有名で、通称”ばらの騎士の三重唱”と呼ばれる。管弦楽もオペラとしては大規模で、弦楽5部はスコア指定では62名が必要。そのほか、舞台裏にかなり大きな編成の

バンドも要求されている。

リヒャルトは、後年、ウィーン国立歌劇場の音楽監督もつとめた。そのウィーンが舞台だけあり、本作は、同歌劇場にとっては特別の演目である。第2次世界大戦時に連合軍の空襲で破壊された同歌劇場が、1955年に再建された際、柿落として上演された演目のひとつが本作だった(ハンス・クナッパーツブッシュ指揮)。

日本でもしばしば上演されているが、特に1994年の同歌劇場来日公演は、いまでも語り草。名指揮者カルロス・クライバーの生涯最後のオペラ公演だったこともあり(ギャラがクラシック史上最高額だったらしい)、半ば伝説となりつつある、空前絶後の名演であった。

### ◎組曲／編曲について

初演が空前の大成功で、すぐに人気作となったため、管弦楽用の曲もいくつか生まれた。全編中からワルツの部分を抜き出した《ばらの騎士ワルツ》のほか、いくつかの管弦楽組曲(サイレント映画用なども)が出た。リヒャルトのオペラは、声楽の旋律に管弦楽が重なるようなオーケストレーションが多かったため、声楽なしで演奏されても、その魅力が消えることはなかった。

本日演奏される組曲の原曲は、それらのなかで、もっとも有名なもの。戦争真っ盛りの1944年10月に、アルトゥール・ロジンスキ指揮のニューヨーク・フィルハーモニックが初演したのだが、出版譜にも編曲者名がなく、通常は「リヒャルト・シュトラウス作曲」とだけ表記される。

曲は、おおむねオペラ原曲の流れに沿って展開する(「組曲」となっているが、切れ目なしでつづけて演奏される)。冒頭は有名な、ホルンの”雄叫び”で幕が開く。これは元帥夫人と、愛人の青年貴族オクタヴィアンとのベッド・シーンで、考えてみれば極めてきわどい音楽である。

その後、第2幕でオクタヴィアンが「ばらの騎士」となり、清純な娘ゾフィーに銀のばらを届ける場面となる(オックス男爵からのプロポーズ)。単なる使者だったオクタヴィアンは、ここでゾフィーに一目ぼれしてしまう。この瞬間から、登場人物たちの運命が、予想外の方向に転がり始めるのである。

このあと、にぎやかなドタバタ・コメディの場や、ワルツなどが華やかにつづき、いよいよクライマックス、オペラ史上に残る名場面の三重唱となる。元帥夫人は若い愛人を失うことの寂しさを、オクタヴィアンはゾフィーへの想いを、ゾフィーはオクタヴィアンの愛を受け入れることの不安を、各々が歌う。まったくちがった感情と言葉が同時に奏でられ、それが破綻していない。歌詩なしでも三者三様の思いが伝わってくる、奇跡のような音楽である(リヒャルトの遺言で、葬儀ではこの三重唱が演奏された)。

やがて元帥夫人は、若い2人の幸せを祈りつつ、青春の終わりを自覚して、そっと部屋を出る……オペラ原曲はこれで終わり。ところがこの組曲では、このあと、ゾフィーに求婚していたオックス男爵の、第3幕前半でのドタバタ音楽やワルツが再現され、さらに、原曲にはないコーダで終わる。

たしかに見事な終曲部分で、音楽的には面白いのだが、なぜ、こだけ原曲の流れを無視したのか。もしリヒャルト自身の編曲だったら、このような構成にしたのだろうか？ また、どうもリヒャルトの筆とは思えないコーダ部は誰が書いたのか？ これらは長年、謎とされていたが、現在では、初演を指揮したアルトゥール・ロジンスキ(1892～1958)の編曲ということになっているようだ。ニューヨーク・フィルの音楽監督として、リストラや苛烈な練習で”独裁者”とまで呼ばれた、超個性派指揮者である。

本日は、《たなばた》《森の贈り物》などで知られる人気作曲家、酒井格(1970～)による編曲譜で演奏される。大阪市音楽団(現・Osaka Shion Wind Orchestra)の委嘱で編曲され、2006年11月に秋山和慶の指揮で初演された。リヒャルト特有の官能的な響きを見事に再現した名スコアである。

【参考資料】『リヒャルト・シュトラウス／作曲家 人と作品』(岡田暁生／音楽之友社刊)

(敬称略)

# PROFILE | 楽団プロフィール



©Atsushi Yokota

## 東京佼成ウインドオーケストラ

### Tokyo Kosei Wind Orchestra

1960年(昭和35年)5月、立正佼成会附属の「佼成吹奏楽団」として発足、

その後1973年に「東京佼成ウインドオーケストラ」へ改称した日本が世界に誇るプロ吹奏楽団。

吹奏楽オリジナル作品、クラシック編曲作品やポップス、ポピュラーまで

幅広いレパートリーの演奏を通し高い音楽芸術性を創出し、

多くの人を楽しめる管楽合奏を展開、各地のコンサートで好評を博している。

また多くのレコーディング、テレビ・ラジオに出演し、吹奏楽文化の向上・普及・発展に尽力している。

2020年に楽団創立60周年を迎え、同年1月より大井剛史が正指揮者、

トーマス・ザンデルリンクが特別客演指揮者、飯森範親が首席客演指揮者、

藤野浩一がポップス・ディレクターに就任。

2022年4月より立正佼成会から独立し、一般社団法人東京佼成ウインドオーケストラとして活動。

# MEMBERS | 演奏者名簿

桂冠指揮者 …… フレデリック・フェネル

正指揮者 …… 大井剛史

特別客演指揮者 …… トーマス・ザンデルリンク

首席客演指揮者 …… 飯森範親

ポップス・ディレクター …… 藤野浩一

指揮 …… ユベール・スダーン

演奏 …… 東京佼成ウインドオーケストラ

Piccolo …… 丸田悠太

Flutes …… 前田綾子、白井源太、  
河野彬、白石法久

Oboes …… 宮村和宏\*、桜田昌子

EnglishHorn …… 宮川真人(Oboe)

Bassoons …… 福井弘康、柿沼麻美

ContraBassoon …… 君塚広明(Bassoon)

Clarinet in E b …… 木内倫子

Clarinet in B b …… 大浦綾子、林裕子、太田友香\*、  
粟生田直樹、安藤友香理、北岡羽衣、  
草野裕輝、櫻田はるか、野田祐太郎

AltoClarinet …… 瀧本千晶

BassClarinet …… 有馬理絵

ContraBassClarinet …… 石田勝

SopranoSaxophone …… 田中靖人(AltoSaxophone)\*

AltoSaxophones …… 林田祐和、金野龍篤

TenorSaxophone …… 松井宏幸

BaritoneSaxophone …… 栃尾克樹

Trumpets …… 奥山泰三、ガルシア安藤真美子、  
本間千也\*、池田英三子、犬飼伸紀、  
関健太、川村大

Horns …… 堀風翔\*、小助川大河、葛西亮、  
齋藤麻衣、田中みどり

TenorTrombones …… 今村岳志\*、石村源海、東川暁洋

BassTrombone …… 佐藤敬一朗

Euphoniums …… 岩黒綾乃、大山智

Tubas …… 久保和恵、若林毅

Contrabass …… 高橋洋太

Timpani …… 篠崎史門

Percussion …… 渡辺壮、和田光世\*、菊本歩、  
木下卓巳、久米彩音、柴原誠

Harps …… 神谷朝子、清水梨紗

Celesta …… 田中翔一朗

※演奏委員

#### コンサートマスター

田中靖人

#### 副コンサートマスター

太田友香

#### インスペクター

栃尾克樹、丸田悠太、今村岳志

#### 企画委員

原浩介

#### 役員

理事長 …… 勝川本久

専務理事 …… 堀風翔

理事 …… 井小萩浩之

監事 …… 清水宏一

#### 事務局

事務局長 …… 勝川本久

事務局次長 …… 井小萩浩之

#### 制作

篠原華

岩崎友香(パーソナルマネージャー)

大橋証太(ステージマネージャー)

羽田紀子(ライブラリアン)

広報  
尾崎真也

荻沼美帆(チケットサービス)

賛助会・サポーターズクラブ

荻沼美帆

尾崎真也

佐原由起

総務  
佐原由起

経理  
水本孝枝

# 賛助会員

2022年4月1日、東京佼成ウインドオーケストラは「一般社団法人 東京佼成ウインドオーケストラ」に生まれ変わりました。今後も音楽文化の発展に貢献する活動を行い豊かな社会を実現するため、趣旨にご賛同いただける多くの皆様からの継続的なご支援が必要です。賛助会へのご入会をぜひご検討ください。

年会費	賛助会員	維持会員	特別会員
個人	3,000円/1口	10,000円/1口	100,000円/1口
法人	100,000円/1口	300,000円/1口	1,000,000円/1口



詳細はこちら

※会員期間：会費納入翌月より1年間

お問い合わせ：東京佼成ウインドオーケストラ事務局 賛助会担当 FAX:03-5341-1255 MAIL: patronage@tkwo.jp

## 賛助会員の皆さま

五十音順、敬称略で掲載させていただいております。(2023年1月1日現在)

### 法人会員

特別会員 (株)佼成出版社

維持会員 エューツーリスト((株)アコード)

名古屋 宗次ホール

賛助会員 アトリエ・エム株式会社

遠藤製作所 遠藤悦治

海鮮食堂余市の仲間達

株式会社CAFUAレコード

管楽器専門店ダク

鈴木住地(有)

株式会社全音楽譜出版社

立花産業(株)

中央鉄鋼 有限会社

HANDYMANクボイ

株式会社日乃本錠前

フォスターミュージック株式会社

株式会社プリマ楽器

柳澤管楽器株式会社

匿名1名

### 個人会員

特別会員 アイちゃん

天野 正道

加賀 直樹

加賀美 猛

菅野 泰正

関根 紳雄

田中 淳子

初田 行央

林 正作

林 総太郎

ヘルベルト・フォン・ホリヤン

古沢 秀明

ミーゴ

三浦 徹

山ちゃん

匿名9名

維持会員：200名 / 賛助会員：154名



# SUPPORTERS CLUB

## 東京佼成ウインドオーケストラ サポーターズクラブ

会員募集中

東京佼成ウインドオーケストラ(TKWO)を応援したい仲間が集まるファンクラブです。

TKWOをもっと身近で特別な存在に♪

サポーターズクラブへ入会して、一緒にTKWOを盛り上げていきましょう!



詳細はこちら

## PR Supporters PRサポーターの皆さま

敬称略で掲載させていただいております。(2023年1月1日現在)

TKWOのチラシやポスターの設置にご協力いただいている皆さまをご紹介します。

### ▼店舗等一覧

アルル音楽教室

(株)コマキ楽器 ジャパンパーカッションセンター

ブレーン(株) 広島本社

ブレーン(株) 東京支社

(株)管楽器専門店ダク

ミュージックスクール「ダ・カーポ」

(株)セントラル楽器

日本大学芸術学部音楽学科 江古田校舎

管楽器雑貨専門店pitch

ザクラリネット ショップ

(株)ドルチェ楽器 管楽器アヴェニュー東京

(株)永江楽器水戸

野中貿易(株)

(株)ヤマハミュージックリテイリング 横浜店

宮地楽器 小金井店 ANNEX

(株)池袋音楽学院

(株)CAFUAレコード

吹奏楽webマガジン「Band Power」

吹奏楽専門ショップ「Band Power」

大江戸シンフォニックウインドオーケストラ

ドレミファクトリー

フルート専門店 テオバルト

アトリエ・エム株式会社

イシバシ楽器 横浜店

フォルテ・オクターヴハウス

管楽器専門店ウィンズスタイル

フォスターミュージック株式会社

葡萄房 by THE CAMEL

やしろ食堂

吹奏楽酒場「宝島。」

金寿司

フローリスト花六

中華 大栴

海鮮食堂余市

### ▼個人のお客様

渡邊 直子

樫野 哲也

東京佼成ウインドオーケストラでは  
PRサポーターを募集しております。

東京佼成ウインドオーケストラの活動をサポートしていただけませんか？  
ポスター・チラシの掲示、チラシを設置していただける店舗・公共施設を募集しております。(個人も含む)ご協力いただける皆さまのご芳名は定期演奏会プログラム・オフィシャルサイトに掲載させていただきます。

TKWO オリジナルグッズ

Original goods

好評  
発売中

ほかにも多くの商品をご用意しております。  
ご購入・詳細はこちら



右肩部分

Tシャツ



ブラボータオル



缶バッジ



アクリルキーホルダー



東京佼成ウインドオーケストラ  
60年史

公演情報

▶ 課題曲コンサート2023

日時 2023年2月17日(金)  
開演 19:00(開場:18:15)  
場所 府中の森芸術劇場 ドリーむホール  
指揮 大井剛史(正指揮者)

▶ 特別演奏会

日時 2023年3月16日(木)  
開演 19:00(開場:18:15)  
場所 府中の森芸術劇場 ドリーむホール  
指揮 水戸博之  
ゲスト 畠田貴生(指揮) 児玉隼人(Trumpet)

▶ 吹奏楽大作戦2023

日時 2023年4月2日(日)  
開演 14:30(開場:13:30)  
場所 川口総合文化センター・リリア メインホール  
指揮 佐々木新平



東京佼成ウインドオーケストラ

2023-24  
Season Concert Schedule

会場：なかのZERO 大ホール

第161回  
定期演奏会



2023年4月28日[金] 開演19:00(開場18:15)

指揮 横山奏 Kanade Yokoyama

- 幻想/A.コスミック
- プスタ/J.ヴァンデルロースト
- プリュッセル・レクイエム/B.アッペルモント
- 交響曲第6番「コッツウォルド・シンフォニー」/D.ブルジョワ

全席指定 5,000円/U25割引 2,500円 会員先行 1月23日/一般発売 1月30日

第162回  
定期演奏会



2023年9月8日[金] 開演19:00(開場18:15)

指揮 飯森範親 Norichika Imori (首席客演指揮者)

- アスファルト・カクテル/J.マッキー
- マンハッタンの情景/J.ヴァンデルロースト
- イーストコーストの風景/N.ヘス
- 交響曲第2番「江戸の情景」/F.チェザリーニ

全席指定 5,000円/U25割引 2,500円 発売日調整中

第163回  
定期演奏会



2024年1月26日[金] 開演19:00(開場18:15)

指揮 大井剛史 Takeshi Ooi (正指揮者)

- 大井剛史・TKWO共同委嘱作品(世界初演)/福丸光詩
- アスパイア(日本初演)/J.ヒグドン
- 金管楽器と打楽器のための交響曲/A.リード
- 交響曲第5番「さくら」/A.リード
- 科戸の鶴巢 一吹奏楽のための祝典序曲《Edition TKWO》/中橋愛生

全席指定 5,000円/U25割引 2,500円 発売日調整中

※全席指定・税込 ※未就学児のご入場はご遠慮ください。※出演者、曲目、時間等は変更にある場合がございます。

3回セット券

2023-24シーズン定期演奏会全3回を  
同じお席でお得にお聴きいただけます!

料金 全席指定 ¥12,000 U25 ¥6,000

販売期間 会員先行 2023年1月11日[水] ~ 1月17日[火]  
一般販売 2023年1月18日[水] ~ 4月27日[木]

※全席指定・税込 ※TKWOチケットサービスのみでお取り扱い。※会員先行はサポーターズクラブ会員対象

自由に羽ばたく、  
極上の音色。



*Custom*  
SAXOPHONES  
**875EX / 875**

サクソフォン  
製品情報はこちら



お問い合わせ | 株式会社ヤマハミュージックジャパン  
〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11  
お客様コミュニケーションセンター管弦打相談窓口  
ナビダイヤル: 0570-013-808  
つながらない場合は053-411-4744へおかけください。  
受付時間: 月~金 10:00-17:00  
(土曜・日曜・祝日・センター指定休日を除く)

ヤマハ管楽器  
安心アフターサポート

※申込期間は、ご購入~1ヶ月以内



詳細はこちら

株式会社ヤマハミュージックジャパン

主催

一般社団法人東京佼成ウインドオーケストラ

共催

なかのZERO指定管理者

後援

一般社団法人全日本吹奏楽連盟

東京都吹奏楽連盟

公益社団法人日本吹奏楽指導者協会

公益財団法人日本音楽教育文化振興会

一般社団法人日本管打・吹奏楽学会

一般社団法人日本吹奏楽普及協会

日本コロムビア株式会社

株式会社テレビマンユニオン

助成

公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

<https://www.tkwo.jp/>

